

なつやすみに おすすめの本

2021年 中学生

『ミス・マーブルの名推理 予告殺人』

K933 クリ アガサ・クリスティー 作
羽田詩津子 訳 早川書房

金曜日の朝、チップング・グレグホーンの住人は、地域新聞の「ガゼット」をめくります。そこには、犬やニワトリ、ガーデン用品の広告等がつめ込まれ、皆を満足させるのです。

しかし十月二十九日の「ガゼット」には、そんな平和な日常とは異なる文章がありました。「殺人をお知らせします。十月二十九日金曜日、午後六時半にリトル・パドックスにて」。人々は、こそってそこへおしかけますが…



『カラフル』 K913 モ

森絵都 作 講談社

死んだはずのぼくの魂が天使の“抽選”に当たり、もう一度下界で修業するチャンスを得ます。

こうして小林真の体に飛び込んだぼくはどうか生き返ります。前世で犯したあやまちを自覚すれば、無事に昇天できるとあって、真になりすましたぼくは必死になって記憶を取り戻そうとします。

『アンの青春』

K933 モ L. モンゴメリー 作 村岡花子 訳
ポプラ社

アンはなつかしいアヴォンリー小学校の先生になりました。学校ではさまざまな個性に満ちた子どもたちがアンを手こずらせますし、家ではマリラが引き取ったふたごの兄妹にてんてこまいです。

さらにダイアナやギルバートたちと「改善会」を作ってアヴォンリー村を美しくするため忙しい毎日を送ります。一方、謎にあふれたミス・ラベンダーと出会い、彼女の昔のロマンスをよみがえらせたり、あこがれの作家モーガン夫人の来訪があったりと、心おどるできごとにもめぐまれます。シリーズの第2作目です。

『ピーティ』

K933 マ ベン・マイケルセン 作
千葉茂樹 訳 鈴木出版

ピーティは生まれつき重い知的障害をもった子どもでした。母親サラは最初の2年間ピーティのために全力を注ぎますがどうにもならず、とうとう専門施設に預けることにします。

ピーティは長い退屈な施設の生活の中でいろいろな人と出会い、またたくさんの別れを経験します。重度の障害を背負いながらも、目にするものや耳にするものすべてに喜びと驚きを見つけながら短い人生を生ききったピーティの物語は、読む者の胸を静かに打ちます。

『つづきの図書館』

K913 カ
柏葉幸子 著 山本容子 絵 講談社

桃さんは、四方山市立図書館別館の新任司書です。桃さんが初仕事で忙しくしていると、「つづきが知りたくてたまらん。」という声がします。そこにはパンツと王冠を身に着けただけの、はだかの王様がいたので。絵本の中から出てきた王様やおおかみ、あまのじゃく達はみな、自分達の絵本を借りてくれた子がその後どうなったのかを確認するために、桃さんに助けを求めます。

丁寧な張られた伏線と、登場人物の心の温かさに読後心地よくなる一冊です。

『精霊の守り人』 K913 ウ

上橋菜穂子 作 二木真希子 絵 偕成社

バルサという武術の心得のある女が、山で皇族の行列に降りかかった災難から皇子を救い出しました。それがきっかけで、命を狙われている第二皇子を守るよう二ノ妃に頼まれます。

しかし、本当の敵は人間の醜い争いを超越したナユグに住むランルガという魔物だったのです。

『鬼の橋』 K913 イ

伊藤遊 作 太田大八 画 福音館書

ある日、小野篁（おののたかむら）は妹比右子（ひうこ）の死は自分のせいだと自分を責め、妹が落ちて死んだ井戸に行こうと五条大橋を渡ろうとします。そこで阿子那（あこな）という少女と出会います。

妹の死がきっかけであの世とこの世を行き来するうちに、阿子那と、非天丸（ひてんまる）という鬼との関わりあいの中で、死や生に対する考え方を模索します。

『ぼくらのサイターの夏』 K913 サ

笹生陽子 作 やまだないと・廣中薫 絵 講談社

一学期の終業式の日、6年生のぼくは友だちとの「階段落ち」ゲームに負けたくやしきから、無理やり高い所から飛び降りてケガをしてしまいました。おまけに罰として、相手チームの栗田といっしょに四週間のプールそうじをするはめに。

サイターの状況で始まったぼくの夏休みはいったいどうなるのでしょうか？

『鏡の国のアリス』 K933 キ

ルイス・キャロル 作 脇明子 訳 岩波書店

雪が降りしきる冬の日の子猫と遊んでいたアリスは、暖炉の上の鏡を通り抜けて鏡の奥へ踏み入ります。そこではとても大きなチェス盤が、世界中に広がっていました。アリスはチェスの白の女王様になるため、ハンブティ・ダンブティやライオン、ユニコーン達がいる鏡の世界を冒険します。

そしてアリスの冒険がどんな顛末を迎えるかは、チェスのルールにもとづいた「白の歩（アリス）が11手目で勝つ指し手」として、1ページにまとめられています！



『青いイルカの島』 K933 オ

スコット・オデル 作 小泉澄夫 絵 藤原英司 訳 理論社

このお話はアメリカで本当にあったことをもとにしています。「青いイルカの島」に住む十二歳の少女・カラーナは、島の人々全員が船でほかの場所へ移住する時に、弟と二人で島にとりのこされてしまいます。やがて弟は野犬の群れにおそわれて死に、カラーナは18年もの間一人で島に暮らすことになったのです。

武器や道具を作り、野犬や大ダコと戦い、ソウアザラシを狩り、住む場所をととのえ、おしゃれを楽しみ、動物たちとともに過ごす少女の、考える力・生きる力に圧倒されます。

木更津市立図書館

TEL 0438-22-3190